

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

* パニーニ社の“FIGURINE”: カルチョ文化を支えるビッグブランド *

山田 晃裕

世の中の大半の人が「PANINI(パニーニ)」と聞けば、まずパツと思ひ浮かぶのはやはりホットサンド「PANINO(パニーノの複数形)」だろう。しかし、海外サッカーフリークのみなさんが思ひ浮かべるのは、サッカー選手のステッカーである。

〈モデナに拠点を置くエンタープライズ企業〉

1961年にモデナで設立された Panini S.p.A (以下、パニーニ社)は、サッカー選手の FIGURINE(ステッカー)の発行元として財を成した大企業(資本金は1億ユーロ!)である。カードの販売網はイタリアだけに限らず、世界150ヶ国にまで及ぶ。事業内容もさまざまなステッカーやトレーディングカードの流通・ライセンス事業、コミックや児童誌の出版事業まで多岐に渡り、1200人の従業員が働いているとのこと。

FIGURINEはステッカー形式で、エディーコラ(新聞スタンド)で購入できる。1つのパッケージ(1ユーロぐらい)に6枚のステッカーが同封されている。1枚1枚に通し番号が振られていて、別売りのアルバム(2パック付きのスターターパックで4.5ユーロ)に番号どおりに貼っていくことでそのシーズンの選手名鑑が完成していくというスタイルだ。

もちろんステッカーはランダムに入っているの、簡単にはコンプリートできない。友達同士でエディーコラで買っては、その場で開封してお互いに持っていないカードを交換するというのが今も昔も言わば「当たり前」の風景である。消費者の年齢層は幅広く、「アルバムにある空白を埋めた

い!」という購買意欲(という名の沼)に支えられ、長きに渡りカルチョの文化・歴史を作ってきたアイコンであると言えるだろう。



2026年で創業から65年目を迎えるパニーニ社。社名は創業者であるジュゼッペ・ベニート・ウンベルト・フランコの4兄弟のファミリーネームに由来する。1945年には兄弟でモデナのドウオーモ通りにてエディーコラを経営していたという。創業前年に他社の売れ残りカードを小袋化(2枚入りで10リラ)して300万パッケージを販売したことで事業規模拡大の機運を掴む。翌年には自社印刷に切り替えて、1500万パッケージを販売して事業を軌道に乗せていく。初期はのりで貼り付ける方式だったが、その後10年ほどで時代の流れに伴い現在のシール形式に変化していく。

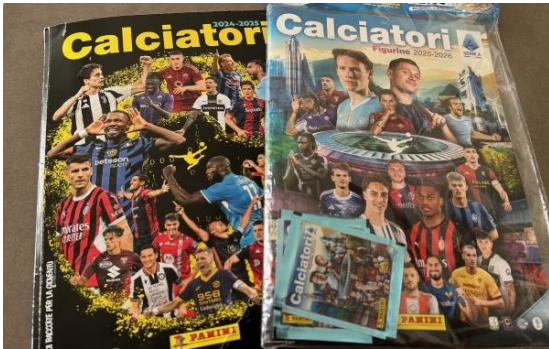
その後、1パックあたりの値段は1970年代に6枚入りで25リラ、1980年代に5枚入りで100リラとなったが、ユーロ通貨導入以降は基本的に1ユーロで販売されている。また、2000年代以降は、誌面のカラー化・企画ページ増・デジタル導線な

ども進み、時代の流れに合わせて楽しみ方が変化している。

〈冬になるとコレクターたちの心が躍る〉

毎年 8 月後半開幕して翌年 5 月に閉幕するスポーツシーズンに合わせて商品展開されるため、アルバムおよびステッカーのリリースはクリスマス前に差し掛かることが多い。クリスマスプレゼントにもピッタリだ。

昨シーズンのアルバムは、セリエ A クラブ(20 クラブ)を見開き 4 ページにわたってスカッド紹介、注目選手がキラキラシールだったりするのが特徴。セリエ B クラブは各チーム 1 ページが割かれ、ステッカー 1 枚で 3 選手を紹介していた。さらにその下位カテゴリー・セリエ C は 60 クラブがひしめいていることもあり、クラブエンブレムとチームの集合写真で完結されている。



なお、開幕後シーズンのおよそ半分を消化する 1 月には、冬の移籍マーケットがオープンになるため、出場機会に恵まれない選手がシーズン途中で移籍することも多い。また、成績不振でチームを率いる監督が解任の憂き目に遭うこともある。このような変更に対応するアップデートステッカー用のスペースもアルバムには確保されており、シーズンを通してコレクションを楽しむことができる仕掛けになっているというわけだ。

近年は女子サッカーのプロリーグ構造の充実も著しく、2024-25 シーズンからは女子サッカー専門のアルバム(48 ページ構成)も登場。女子サッカー選手のステッカーが 1 枚追加封入される形で販売され、女子サッカー文化の普及にもつながる動きをとっている。

今季からはセリエ B のアルバムが独立した形で販売されている。各チーム見開き 2 ページの 48

ページ構成で、480 枚のステッカーがリリースされ、このうち 60 枚がキラキラ加工のスペシャルステッカーとなるようだ。先日開催された 18・19 節では、スタジアム来場者向けにアルバムの無料配布や、スターティングラインナップ発表をステッカーデザインで実施するなどの普及に向けた取り組みが行われている。

〈スパイダーマン・ミッキーマウス・スーパーマン〉

サッカー選手カードが主力商品であるのは間違いないが、コミック出版部門である「PANINI COMICS」も、今やヨーロッパで 5 本の指に入る児童書出版社にまで成長している。1994 年にアメリカのヒーローコミックである MARVEL(マーベル)社の子会社として設立されたことがはじまり。しかし、マーベル関連コミックの出版はイタリアだけでなく、ブラジル・ドイツ・フランス・イギリス・スペイン・ハンガリーにまで広がり、ヨーロッパ・オセアニア・中南米における独占販売権を保有するまでになった。

また、2013 年からはディズニーキャラクターが登場する「TOPOLINO」などの雑誌の出版権を保有するほか、2020 年からはマーベルの競合とも言える「DC コミックス」の出版権を獲得。いわゆるスーパーヒーロー系の映画の新作が公開されるたびに新たなステッカーをリリースできるのだから、話題性にも事欠かないのは大きな強みだ。

グループ全体でサッカー選手を中心としたステッカー年間 5 億枚を流通させ、スパイダーマン・ミッキーマウス・スーパーマンが一堂に会する「総合メディア企業」であることに疑いの余地はない。昨年のグループ全体の売上が約 16 億ユーロ、企業価値が 30~40 億ユーロ規模というデータも納得できる。

〈スポーツテック企業としての一面も〉

パニーニ社の副次的プロダクトとして紹介しておきたいのが、「Panini Digital」というサッカーのプレー分析ツール。元は 1990 年代にブレシアで発足した「デジタルサッカープロジェクト」という分析プログラムに端を発する。2000 年にパニーニ社が主導権を握るようになってからは、持ち前の知名度を活かして、イタリアサッカー界が世界に

誇る名将たち(マッシミリアーノ・アッレグリ、カルロ・アンチェロッティ、ファビオ・カペッロ、アントニオ・コンテ、マルチェロ・リッピなど枚挙にいとまがない)との連携によりプロジェクトを加速度的に成長させている。

これまでに分析したチーム数は 9800 超・選手数は 17 万人、データが記録された試合数もおおよそ 17 万という、イタリア発ながら世界中にユーザーを抱える一大データベースとなった。ここで確立された統計情報は各国のクラブやエージェン트에販売されており、選手の市場価値を測る上での貴重な情報源ともなっている。

その情報を作り上げるのが Panini Digital 公認のマッチアナリストたち。資格取得までに1年半に及ぶ研修プログラムの受講が必須であり、最終試験合格率も 20%というなかなかの難関である。ステッカーを通じてサッカー界の歴史を作ってきた一方で、サッカー界の「現在」を支えるスポーツテック企業の一面も併せ持つというのはなかなか興味深いところだ。

1961 年から 1992 年まではパニーニ家による一族経営だったが、その後は外国資本を含めて複数回の資本売却を経験している。パニーニ家の意志を継ぐ形で直近 33 年の飛躍を支えてきたのは、実質的なオーナーだったアルド・ウーゴ・サルストロ氏。アルゼンチン・ブエノスアイレスの出身で、ここまでに紹介してきたあらゆるアクションの舵取りを担ってきた。

昨年 75 歳でこの世を去ったが、彼の後継者として CEO の座に就いたのがイヴァム・アタイデ・ファリア氏。同じく南米・ブラジル出身で、パニーニ社の「これから」を担う人物となる。

たかがステッカー、されどステッカー。いくら愛するクラブの有名選手が印刷されているとはいえ、日常においては些細なアイテムでしかない。まさかここまでのエクスペンションを続けられるとは誰が想像できただろうか。おそらく創業者の 4 兄弟も空の上からびっくりしているに違いない。

<おわりに(モデナ発愛知県行きのクリスマスプレゼント)>

さて、終わりに、2025 年の 4 月に時計の針を戻そう。当方 25 回目のイタリア遠征を終え、関西国

際空港から愛知県へと戻る道中の話だ。新大阪駅の新幹線ホームでスーツケースを引きずりダッシュするイタリア人観光客の 8 人組とすれ違う。彼らが飛び乗ろうとしていたのが回送列車だったので、思わずイタリア語で呼び止めることになった。

聞けば熱海に向かうとのことなので同じ列車に乗ることに。8 人中 6 人が私たちにとってはライブルであるインテリスタだったのだが、ここで知り合ったのも何かの縁で四方山話を続けていた。その中の 1 人の女性・シルヴィアさんが口を開く。「ミランは絶対に応援できないけど、この子どもたちなら応援できるわよ」と言うのだ。詳しく聞けば、彼女はモデナ出身で、パニーニ社で長く働いているとのこと。

その場では急ぎ連絡先を交換するに留まったが、1 年を通じてやり取りが途絶えることはなく親交を深めていく。そして昨年末、アカデミーのクリスマス会プレゼントとして発売されたばかりの FIGURINE を提供してくれることに。クリスマス後にモデナから現テクニカルディレクターであるマッテオの地元・ローマへ。その後年が明け、イスタンブールと大阪を経由してようやく愛知県へと辿り着いた。

欧州 5 大リーグの一角とはいえ、リーグ全体での資金力は決して豊かではないイタリア・セリエ A。誰もが知る有名な選手が少ないのは口惜しいところだが、子どもたちの収集癖を刺激するには十分で、思いがこもったプレゼントがイタリアから届いたという事実には偽りはない。これを機に、イタリアサッカーファンが増えるといいなと心から思う。

この 2~3 年たくさんの人と出会ってきたこともあり、「旅が繋いだ不思議な縁はいつだってポジティブに作用する」というのが私の持論だが、「インテリスタであれ同様の効果を発揮する」と注釈を付け加えることにしよう。

GRAZIE SILVIA!! Ti ringrazio di cuore anche se NON posso dire “Forza Inter” :))

(AC ミランアカデミー愛知)

* ボローニャの語学学校 クルトゥーラ・イタリアーナは

こんな感じ*

竹田 理乃

たった 1 週間の留学でなんか変わるんですかあ〜と斜に構えたことをおっしゃる方をお見掛けしたことがあります。たった 5 日間ぽっち語学学校に出戻ってきたばかりの私から申し上げますと、なにかしら変わります。旅行でも変わりますけど、やっぱり授業というのはよく効きます。では、どんな授業が行われて、どんな効果が得られるのか。私が通ったイタリアの語学学校はボローニャのクルトゥーラ・イタリアーナだけです。些か視野が狭いかも知れませんが、ご参考までにここで振り返ってみます。



【クルトゥーラ・イタリアーナの近所の道】

クルトゥーラ・イタリアーナの毎日の授業は、基本的に文法のクラスと会話のクラスの両輪で構成

されています。新入生はそれぞれのレベルに適したクラスへ、入学前のテストの結果に合わせて割り振られます。初学者向けのクラスもありますので、まだ始めたばかりだから留学できないということはありません。そうは言っても授業と現地生活に必要なので、少なくとも近過去くらいまでは日本で勉強していくことをオススメします。たとえば、なにか困ったことがあったとき、学校の事務員さんや大家さんに「こんなことがあったから、私は今こうなっているんです」くらいの因果関係を説明できるようにしておきたいところなので。

初学者向けの授業は午前中、上級者向けの授業は午後が開講される傾向があり、みっちり拘束されるということはありません。宿題をさっさと済ませたら、空き時間で学校の近くにある観光名所をいろいろ見て回ることができます。ペポリ宮殿の歴史博物館は学校と同じ建物のなかにありますし、ダンテの『神曲』にも登場するボローニャの 2 本の斜塔は目と鼻の先、休憩時間にみんなが駆け込む裏手のバールから広場を渡れば、静謐でミステリアスな雰囲気のあるサント・ステファノ教会群が佇んでいます。

そうこうしているうちに午後の最終クラスが終われば、課外活動の時間がやってきます。定番の歴史を紐解く街歩きもあれば、隣の席の人とこそそ話しながらプリントで配られる文法問題を解く机に向っての自習、ちょっとしたハイキングや公園に出かけてバレーボールで遊ぶ程度の気楽なスポーツもあつたりと、内容はなかなか多彩です。

おもしろいところでは、その場で作ったグループごとに道行く人に声をかけて出身地の方言を覚えてもらい、集められた表現の数で競争をしようというゲームがありました。大学施設の多いゼンボーニ通りでイタリア各地から集まってきている学生さんを狙ってみたのですが、ちょっと忙しいような人が多かったのも、むしろマッジョーレ広場の方へ歩いてメッツォ市場をうろつき、観光客を捕まえようと手ぐすねを引いている店員さんたちから、地元ボローニャの方言を集めた方が効率がよかったような気もしています。ついでに、晩ごはんの材料を買いそろえてしまえたでしょうし。

ちなみに、課外学習には追加料金や事前の予約が必要なこともあるので、気になる人は出発前に問い合わせを入れてみるといいでしょう。私が語学学校に戻った週には料理教室がメニュー違いで2回開催されたのですが、気が付いたときには予約がいっぱいになってしまっていたり、私の方に別の予定が入ってしまっていたりして、参加することができませんでした。以前の長期滞在中に何度か参加したときには、とても愉快的時間を過ごすことができたので、これはちょっと心残りです。

生き残るため程度にしか料理をしないタイプの人にとって、自分でパスタの生地を捏ねるなんていうイベントはなかなか発生するものではありません。噂には聞いていたものの、本当に水を使わずタマゴだけで小麦粉を捏ねあげて作った、味にも色にもしっかりと重みのあるラグーがまだ絡められていない、真っ新なタリアテッレの鮮烈な黄色に目を奪われたのを覚えています。クリスマスが近くなると、ボローニャ子の友人が家族でせっせと作るトルテッリーニの山の写真がFacebookに載るのですが、あれも写真で見るとよりずっときれいな色をしていることでしょう。なんてことない生パスタくらい、ボローニャの市場どころか日本のスーパーマーケットでだって簡単に購入できますけど、木のまな板の上へ山にした小麦粉に窪みをつけて、ふんわりした白のなかにつるんとした卵黄をぽとんと落とすときの色と質感のコントラストや、それを指先で壊して混ぜ込んだときになんだかソワソワして隣にいる人と顔を見合わせてニヤニヤしてしまったり、生地が滑らかになる前に腕が疲れてしまったと肩をすくめ合ったりしたことに感じる懐かしさは、なかなか手に入るものではありません。一度こういう楽しい経験をしておくと、友人がなにげなく見せてくれる料理写真から感じられる温かさが増し、いつか私も一緒にしたいんですけど、イタリア再訪への熱意が高まります。いいなあ～私もやりたいなあ～の気持ちは、イタリア語の学習を継続するための意欲を掻き立てる燃料になるので、種を見つけるたびに拾って歩くことは非常に重要です。



【トルテッリーニ】

さて、なにせ楽しいもので、すっかり課外活動の話に夢中になってしまいました。それで、肝心の授業はどうなのよ。現地で勉強したらイタリア語は上達するんですか。そここのところへ話を戻したいと思います。

授業の進め方というのは人それぞれですので、どの先生が担当するクラスに割り振られるかによって違いがあります。また、毎週月曜日になると新しい生徒がやって来てそれぞれのクラスに合流するという形式になっているので、単元の区切りやクラス再編のタイミングに当たらなければ途中参加となり、入学生というより転校生になったような気分で留学のスタートを切ることになります。自分の経験やほかの生徒さんの様子から、すでに知っていることをイタリア語で復習するような具合でクラス分けが行われることが多いのではないかと感じています。新しいことが教えてもらえないなら短期留学なんて無駄じゃんと思われる方もいらっしゃるでしょうけど、私にはこれがとてもありがたいシステムでした。復習というのは常に足りていないものですので、先生にじっくりお付き合いいただけるのはありがたいことです。

また、すでに知っていることを、自分の使っている教科書には載っていない、生活感のある単語で習い直せるというのもおもしろいものです。例えば、私が里帰り留学した時期のボローニャは、渋滞を解消すべく空港・旧市街・住宅地・見本市会場などを繋ぐトラムの建設計画のうちの主要道路での工事が完成まで秒読み状態だったり、短期滞在者にかかる滞在税の増額が検討されていたり、一度は塞がれて暗渠になっていた運河を掘り起こして目に見えるかたちに戻す工事が行われていたりといったようなトピックが、語学学校内だけでなく、友人やそのあたりで立ち話をするだけの知らない人たちのあいだでもホットな状態でした。こういったような内容についてイタリア語で会話する機会は、日本にいたとなかなか得られません。

今回、特に印象的だった会話の授業では、生徒はまず小さなグループに分けられ、そのなかで「ボローニャは短期滞在者から徴収する滞在税を増額するべきか否か」について話し合いを行って意見をまとめ、次いでグループ単位で意見を戦わせるというディスカッションが行われました。住宅不足に悩む地元住人や学生のことを第一に考えるグループもあれば、旅行者としてたまに戻ってきたいと願っている自分自身の立場から主張を行うグループもあり、生徒のバックグラウンドの多様さだけものの見方も様々。きっちり仕切ってくださる先生やことばに詰まると援護してくれるチームメートのいる安心感から、かなり白熱しました。これはすでに一度勉強している单元という土台の上にあるからこそ楽しめる、復習のゲームだったと思います。

なお、もっと盛り上がった課題としては、匿名でクラスメイトを褒めたたえる手紙を書くというものがありました。性格のしつこさが露呈しますが、今までに破られた約束を思い出して、裏切り者をイタリア語で糾弾するという課題も、私はとても楽しかったです。

ただイタリアを旅行するだけでもコミュニケーションや情報収集のツールとして使用したという実感から自信はつきますが、学習対象としてのイタリア語を扱うためのしっかりした舞台を提供してもらえることは、語学学校を利用する大きな利点だ

と感じています。ひとつの都市でゆっくり過ごす滞在型観光がお好みなら、次のご旅行に語学学校の利用を検討してみてもいいかもしれません。パカンスのおまけで、お勉強のやり方に弾みがつくかも知れません。



【クルトゥーラ・イタリアーナの内部】

(元当館語学講師)

編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 4
TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357
E-mail: centro@italiakaikan.jp
URL: <http://italiakaikan.jp/>